

**日本地理教育学会**  
**2023年度 11月例会**

**2023年11月11日**  
**於：獨協大学**  
**コミュニティスクエア**

地理オリンピックと中学・高校地理教育3  
**WRTの特徴と論述試験**

**清水 大介**  
**(東京都立八王子東高等学校)**

- **国際地理オリンピック(iGeo)**

※日本の国際大会(アジア太平洋大会を含む)への組織的な参加は、2007年度からとなる。

↓ 国際大会への参加者を組織的に選抜。

- **科学地理オリンピック日本選手権(日本選手権)**

目的：受験者が、各種試験に挑むことで地理的能力を競い、日本の地理教育の振興を図るとともに、国際標準の問題に挑むことで世界が求める地理の学力について理解し、**地理が果たすべき社会貢献のあり方について考えるきっかけをつくること。**

※試験は**マルチメディア**(MMT)・**筆記**(WRT<sup>注</sup>)

-120分-・**フィールドワーク**(FWE)で実施。

(<sup>注</sup>Written Response Test)

## 2

## WRTの設問テーマの傾向～iGeo テストガイドラインとの関係

年度	回数	大問数	iGeo テストガイドラインのテーマ(1-12)												13 (その他)
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
2007	2	5		○					○	○			○		○
2008	3	5		○				○	○	○					○
2009	4	6		○	○			○	○	○		○			
2010	5	5	○							○		○	○		○
2011	6	6	○					○	○	○					○
2012	7	5	○					○		○		○			○
2013	8	6	○		○			○	○	○					○
2014	9	6	○					○	○	○		○			○
2015	10	7			○	○		○	○	○				○	
2016	11	7		○	○	○		○	○	○					○
2017	12	5	○	○	○							○			○
2018	13	7				○○		○	○		○	○			○
2019	14	7		○		○		○	○				○	○	○
2020	15	6		○					○	○			○		○○
2021	16	7			○○	○	○			○			○	○	
2022	17	6	○			○			○	○			○		○

テーマは、1 気候と気候変動、2 災害と災害管理、3 資源と資源管理、4 環境地理と持続可能な開発、5 地形、景観と土地利用、6 農業地理と食糧問題、7 人口と人口変動、8 経済地理とグローバル化、9 開発地理と空間的格差、10 都市地理、都市再開発と都市計画、11 観光と観光管理、12 文化地理と地域的アイデンティティ (13は地誌)

## 3

## W R Tにおける設問テーマ・解答形式・提示資料の傾向と特徴①

清水(2022)は、日本選手権のW R T問題(第2～16回)について、設問テーマ・解答形式・提示資料の傾向と特徴を分析した。

	解答数	資料数	冊子頁数	解答形式	
				選択式	説明式
第2-6回 【前期】	↓ (少ない)	↓ (少ない)	↓ (少ない)	- (混在)	↑ (多い)
第7-11回 【中期】	↑ (多い)	↑ (多い)		↑ (多い)	↑ (多い)
第12-16回 【後期】	→ (中程度)	↑ (多い)	↑ (多い)	↓ (少ない)	↑ (多い)

- ①設問テーマの特徴…**現代の社会事象を素材**とした設問が多い。
- ②解答形式の特徴…**解決・提案策を提案する説明形式**の設問がみられる。
- ③提示資料の特徴…**複数の資料を用いて説明**させる設問が増加。



日本選手権WRT は地理的な思考・判断・表現のみならず、参加・行動に関する態度的側面も計るように作成されている。

その上で、今後は受験者の解答を分析し、WRTの問題内容の妥当性等について確認することが必要とした。



本報告では、

- ①WRTにおける**受験者の解答分析**、
- ②WRTにおける**問題内容の検証**、
- ③WRTと**大学入試問題の特徴分析**、

を行うことにより、

**地理教育におけるWRTの活用方策について提案**する。

清水大介:「科学地理オリンピック日本選手権記述式問題(WRT)の傾向と特徴～地理教育との関連を意識して～」、日本地理教育学会第72回大会発表要旨集、2022.

本報告で、受験者の解答を分析する問題。

→2020年度 **第15回日本選手権WRT 大問 E**

「**地域調査と地図の活用**」(一部は英文問題であるが、ここでは日本語問題のみを対象とする。)

[以下、大問 E と表記]

※中学校における地域調査に関する学習内容  
『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』では、  
C 日本の様々な地域  
(1) 地域調査の手法  
⇒主に**技能の習得を中心**とする学習  
(4) 地域の在り方  
⇒主に**地域の地理的な課題の解決を  
中心**とする学習 となっている。

地域調査に関する学習は、「地域調査のための**技能を習得**し、地域の**地理的特徴を理解**した上で地域の**課題解決に向けた取組**を行うこと。」といえる。

国際地理オリンピックで求められるスキル

1 **地図スキル**

2 **探究スキル**

3 **グラフィカシースキル** (映像、写真、統計、  
グラフを読み、分析し、解釈するスキル)

(国際地理オリンピック日本委員会実行委員会編(2023)による)

地域調査に関する大問は、地理的**技能・幅広い**  
(人文・自然)地理的**内容の理解・地域の課題解**  
**決に対する関心等を総合的に測りやすい。**

大問 E は、**受験者の解答を分析しWRT の出題内容の  
妥当性等を検討する上では、特に適した問題**といえる。

## WRTにおける受験者の解答分析③～分析に用いる問題③

年度	回数	大問数	大問A	大問B	大問C	大問D	大問E	大問F
2020	15	6	自然環境と 農水産業	地形と自然 災害	観光	世界の人口	地域調査と 地図の活用 [一部英文]	トルコ地誌 [英文]

## 日本語問題における解答形式と提示資料



年度	回数	大問	大問内容	小問	配点	解答形式						提示資料								
						選択式	短答式	説明式				作図等	その他	地図	統計地図	図	表	写真等	その他	
								理由	比較	類型化	提案									その他
2020	15	E	地域調査と地図の活用	(1)-①	1		1						1							
2020	15	E		(1)-①	2					1			//							
2020	15	E		(1)-②	3		1						//							
2020	15	E		(2)-①	1		1						1							
2020	15	E		(2)-②	5				1				1							
2020	15	E		(3)	1	1									1					
2020	15	E		(4)	3					1			1				1			
計 (解答数7・資料数6)					16	1	2	1	0	1	1	0	1	0	4	0	1	0	1	0

## 大問E 地域調査と地図の活用

解答数：7

配点：16

資料数：6(地図・図・写真等)

解答形式：選択式1・短答式2・説明式3・作図等1

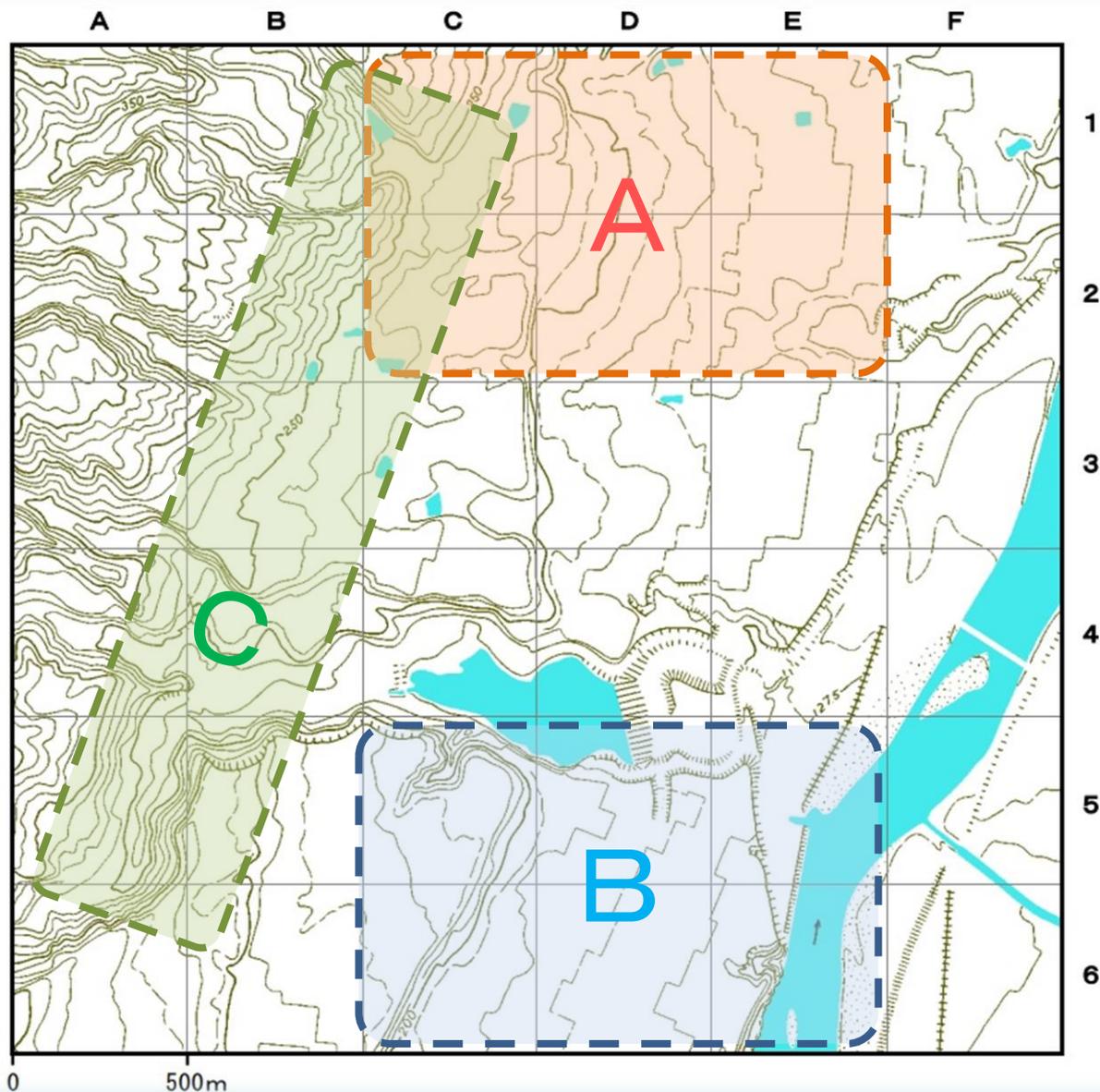


**報告者が、受験者(102名)の解答を新たに採点。**

(そのため、WRTの実際[以下、本番と表記]の採点基準・採点結果とは異なる。)

大問 E (1) 《前略》図 E 1 は、一般図である地形図(1/2.5万)から、特に自然環境が読み取りやすいように、等高線と水面のみを示したものである。

- ①地形図から読み取れる自然環境にかかわる情報としては、地形や気候の様子などが考えられる。**図 E 1 の読図から、あなたが読み取った地形名称を、「三角州」のように1つ答えなさい。その上で、その地形が広がっている範囲を、解答用紙の地図中のマス目に鉛筆で色を塗って示しなさい。**なお、色を塗るマス目は、その地形が典型的に表れているとあなたが判断した、2～8マス程度で構わない。
- ②あなたが、上記①のような地形であると**判断した理由を説明しなさい。** 《後略》



大問 E (1)  
-地形名



《想定される  
解答》

A. 扇状地

B. 河岸段丘

C. 断層(活断層)

など

図 E 1

《想定される解答》地形判断の理由。

- ・扇状地：等高線が密な山間地であるB 1・C 1(扇頂)から、D 1・D 2(扇央)からF 1・F 2(扇端)に向けて**等高線が弧を描くように扇型に広がっている**ため、扇状地であると判断。
- ・河岸段丘：C 5からC 6にかけてと、E 5からE 6にかけては**等高線が密で崖**となっており、その間のD 5からD 6にかけては**補助曲線がみられ平坦地**であることから、河岸段丘であると判断。
- ・断層(活断層)：C 1からA 6にかけて、その西側は等高線が密な山間地であるが、その東側は等高線が疎であり平坦となっている。この**境界部は一直線に崖となっている**ことがわかり、断層(活断層)であると判断。

などを説明する。

製炭不況、養蚕不況などにより経済的基盤を喪失し、高度経済成長期に激しい人口流出に見舞われた日本の山村は、山村振興法、過疎法の相次ぐ制定によって振興の道が開かれた。その振興の中心は、都市との経済格差の縮小、雇用機会の増加、生活様式の都市化を図るための企業誘致や公共事業の展開、観光開発、生活環境の整備であった。

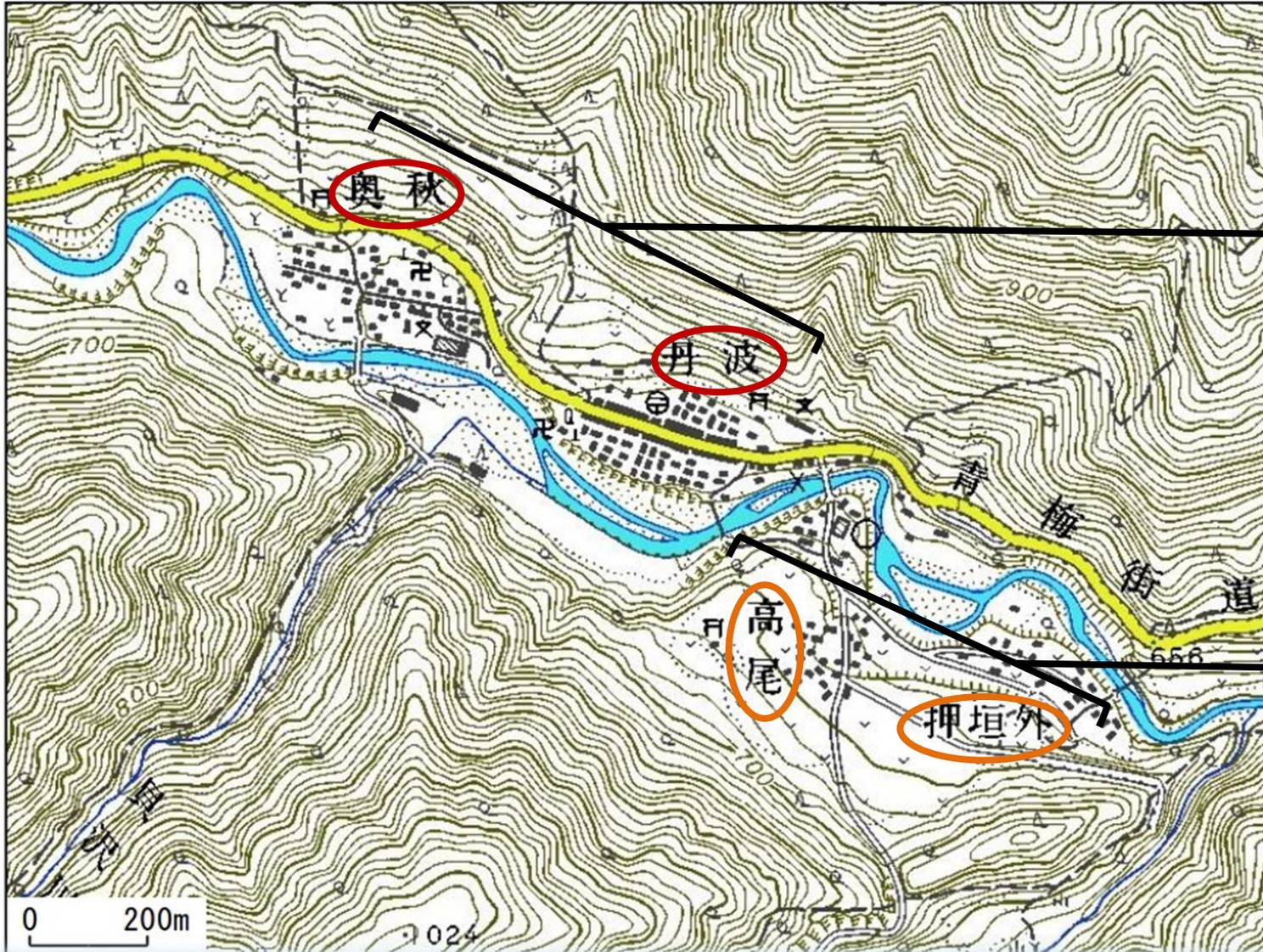
様々な優遇措置を伴った企業誘致は一定の効果をもたらしたが、1985年の[ ア **プラザ** ]合意以降における急激な円高、バブル経済の生成と崩壊の影響から、誘致企業の山村からの撤退、海外移転が目立つようになり、今や山村地域への企業立地はほとんど望めない状況となった。

現在、山村の取り巻く経済環境は、経済のグローバル化の進展も伴い厳しい状況が続いており、山村振興は容易な状況にはない。

西野寿章:「21世紀初頭における日本の山村の現状とその類型」,高崎経済大学論集54-4,2012.を一部改変して作成

大問 E (2) 《前略》インターネットでみた、東京都心から直線距離で約70km圏の山間地に位置し村内に鉄道は通っていない、人口548人(2020年12月)の山梨県丹波山村に興味を持つようになった。同村は山梨県に位置するが、路線バスで行くことができる最寄り駅は、東京都奥多摩町にあるJR青梅線の奥多摩駅(新宿駅までJRで約95分)である。図 E 2 は、図書館で閲覧した地形図であり、約35年前(1996年)の丹波山村の中心集落を示したものである。

- ① 《前略》空欄アに入る**適当な語句**を答えなさい。
- ② 《前略》図 E 2 中の4集落(奥秋・押垣外・高尾・丹波)での農業について、**耕作地の立地条件に着目し4集落をAとBの2つに類型化した上で、それぞれの類型での農地の立地の特徴とその理由**について説明しなさい。



青梅街道  
の北側  
**奥秋・  
丹波**  
(日向集落)  
と  
青梅街道  
の南側  
**高尾・  
押垣外**  
(日影集落)  
に区分。  
図E2

## 《想定される解答》

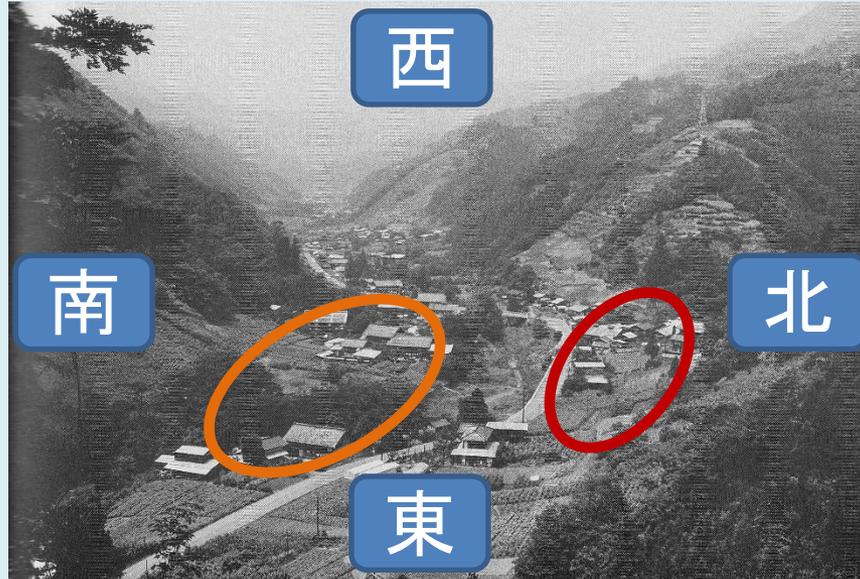
日照時間が短い。



**日影集落**

集落立地には不利であり、**標高が高いところまで農業的土地利用**はみられにくい。

北向き斜面



※写真は埼玉県の実例

日照時間が長い。



**日向集落**

集落が立地しやすく、**標高が高いところまで農業的土地利用**がみられる。

南向き斜面

大問 E (3) 《前略》図書館で閲覧した『国勢調査』から、丹波山村の人口と産業の様子について確認した。図 E 3 は、丹波山村の産業別就業者数と総人口の推移について、《中略》グラフの形でまとめたものであり、A～C は、建設業、製造業、農林業のいずれかである。前出(2)の文章も参考に、図 E 3 の中から、製造業と農林業に該当するものが正しく示されているものを、次のア～カの中から 1 つ選び、記号で答えなさい。

- ア 製造業－A・農林業－B  
**イ 製造業－A・農林業－C**  
 ウ 製造業－B・農林業－A  
 エ 製造業－B・農林業－C  
 オ 製造業－C・農林業－A  
 カ 製造業－C・農林業－B

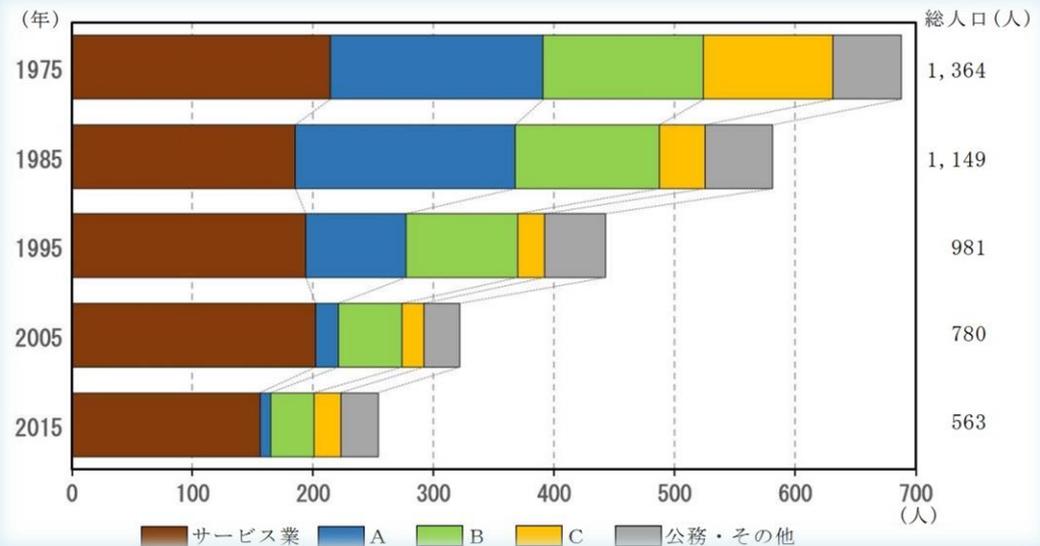


図 E 3

大問 E (4) これまでの文献調査を踏まえて、《中略》日本の山村の現状についての現地調査を行った。《中略》聞き取り調査では、人口減少時代となった現在では、一過性の観光による「交流」や移住による「定住」ではなく、都市に暮らしながら地方と「関係」を持ちたいと考える人々との関わりを強めることにより、地域を活性化させようという考えが注目されていることを学んだ。図 E 5 は、《中略》現在の丹波山村の様子を示したものである。

もしあなたが、地域調査のレポートで、**丹波山村の地域活性化策を提案**するとしたら、同村の自然、文化、社会資源、地域の取組み等を活かして、都市居住者とどのような「関係」を創りこの地域を活性化させていくか、**前出(2)の文章や図 E 2～図 E 5 も参考にして、あなたの提案を述べなさい**。なお、解答は、どの資料を参考とした上での提案かがわかるようにすること。



図 E 4 現地調査で確認した施設(a~c)とパンフレット(e・f)



図 E 5

《想定される解答》 これらを活かした地域活性化策を提案。

- (1)自然資源： ・ 河川や山地等の豊かな自然(水辺散策や登山)  
[⇒[図 E 5](#)]
- (2)文化資源： ・ 畑作を中心とした山間地の立地を活かした農業[⇒[図 E 2](#)・[図 E 5](#)]  
・ ジビエ料理[⇒[図 E 4-b](#)]
- (3)社会資源： ・ 新たに建設された道の駅や温泉  
[⇒[図 E 5](#)・[図 E 4-a](#)・[b](#)]  
・ Wi-Fiの整備[⇒[図 E 4-c](#)]
- (4)地域の取組： ・ 欧文パンフ(インバウンド)[⇒[図 E 4-c](#)]  
・ 日本各地と連携した情報発信[⇒[図 E 4-d](#)]
- (5)その他： ・ 総人口の減少[⇒[図 3](#)]や脆弱な公共交通(バス)  
[⇒[図 E 4-c](#)]→マイナス面の改善につなげる。  
・ 東京から日帰り圏[⇒[リード文](#)・[図 E 4-c](#)]  
→都心からは日帰り圏。      などを読み取る。

大問E	設問 (1)-①	設問 (1)-①	設問 (1)-②	設問 (2)-①	設問 (2)-②	設問 (3)	設問 (4)	計
解答形式	短答式	作図等	説明式	短答式	説明式	選択式	説明式	
平均点(点)	<b>0.6</b>	<b>1.13</b>	<b>1.52</b>	<b>0.81</b>	1.18	<b>0.11</b>	0.92	6.26
配点(点)	1	2	3	1	5	1	3	16
得点率(%)	<b>59.8</b>	<b>56.4</b>	<b>50.7</b>	<b>81.4</b>	23.5	<b>10.8</b>	30.7	39.2
無解答者 (人)	5	7	<b>14</b>	9	<b>27</b>	5	<b>34</b>	1
全体成績上位 者(25%)の中 での無解答者数	0	0	0	0	4	1	8	0
全体成績下位 者(25%)の中 での無解答者数	2	3	<b>8</b>	6	<b>11</b>	3	<b>10</b>	1

※ 全体成績上位者と全体成績下位者は本番の人数である(受験者数：102人)。

- 大問 E **全体の得点率は約40%**であり、**7問中4問は得点率が50%を越える**。
  - 設問(3)(選択式)の得点率が約10%と極端に低い。
- **全体的にみると無解答者は少なく**、全体成績が上位の者(上位25%)の無解答者は特に少ない。
- **説明式問題**(設問(1)-②・設問(2)-②・設問(4))では、**無回答者の割合が高い**。
  - 特に設問(4)(**提案型の説明式問題**)では、**無回答者が約3割**を超える。

↓問題の客観的な検証

本報告では、**識別指数(識別値)**を用いて**問題内容を客観的に検証**していく。

**識別指数**：設問の識別力(得点上位者と下位者を  
(DI<sup>注</sup>) 区別する指標)を示す値。

→医学系教育の分野(医師国家試験・  
看護師資格試験・診療放射線技師  
国家試験等)で広く利用される。

通常は、簡易式  $DI = (a-b)/n$  で計算される。

a：成績順位上位者(上位25%)の  
中でその設問に正答した人数。

b：成績順位下位者(下位25%)の  
中でその設問に正答した人数。

n：全体の25%の人数。

**0.25以上**だとその設問は**識別力が高く**、  
**0.50を越える**と**特に優れた設問**と判断される。

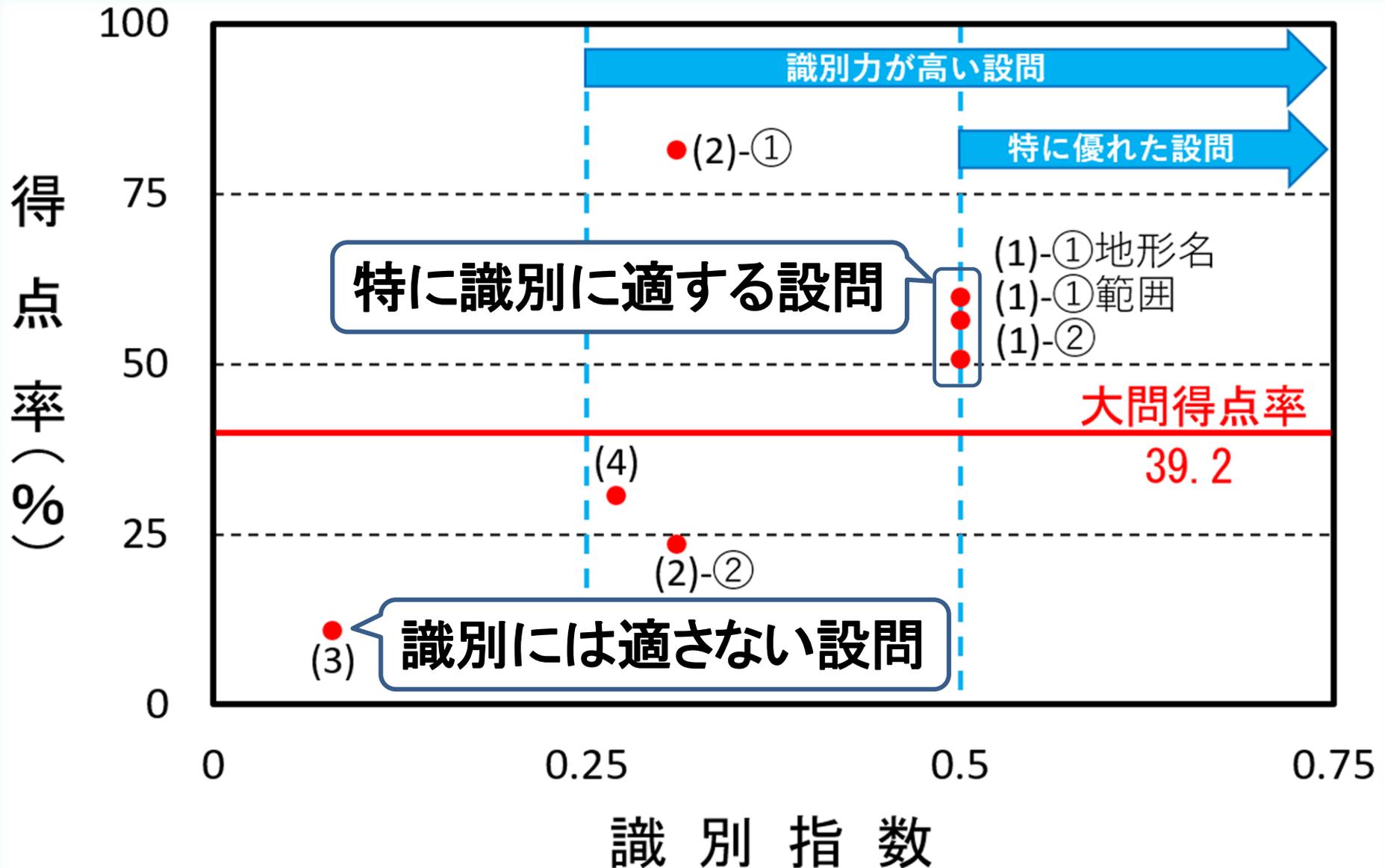
(赤根・伊藤・林ほか(2006)、新井・小林(2021))  
(<sup>注</sup>Discrimination Index)

識別指数は、通常は択一式問題を対象として、正答率と組み合わせて用いられる。

→本報告では、正答者数は部分点も含め**その設問で得点を得た人数**とし、便宜的に**正答率の代わりに得点率**を用いる。

大問E	設問 (1)-1	設問 (1)-1	設問 (1)-2	設問 (2)-1	設問 (2)-2	設問 (3)	設問 (4)
全体成績上位者 (25%)の中での 正答者数(a)	20	20	19	25	17	3	17
全体成績下位者 (25%)の中での 正答者数(b)	7	7	6	17	9	1	10
全体の 25%の人数(n)	26						
識別指数 (a-b)/n	0.50	0.50	0.50	0.31	0.31	0.08	0.27

※ 全体成績上位者と全体成績下位者は本番の人数である(受験者数：102人)。



- 大問 E の7問中6問は、**識別指数が0.25を越えている**。  
→なかでも、設問(1)に関する3問は、  
識別指数が0.50を越える。
- 大問得点率の平均が約40%であり、識別指数と得点率からみた場合、**設問(1)に関する3問は特に識別に適する設問**であるといえる。



大問 E は、全体としては**得点上位者と下位者の弁別を行うのに適する大問**であるといえる。

赤根敦・伊藤圭・林篤裕・椎名久美子・大澤公一・柳井晴夫・田栗正章:「識別指数による総合試験問題の項目分析」,大学入試センター研究紀要35,2006.

新井正一・小林龍徳:「診療放射線技師国家試験における問題難易度の識別指数に基づいた評価の試み」、純真学園大学雑誌11、2021.

## 27 WRTと大学入試問題①～国公立大学二次試験問題との比較①

MMTと大学入学共通テストとの関係については、本日、林先生からの報告がある。

→本報告ではWRTと大学入試の論述試験(説明式問題)の特徴を比較していく。

- ・大学入試で地理選択が可能な大学(2024年度入試・個別入試)

校種	北海道	東北	関東	中部	近畿	中四国	九州	計
国公立大学	1	0	6	4	2	0	2	15
私立大学	7	8	27	7	8	7	14	78
計	8	8	33	11	10	7	16	93

(ベネッセコーポレーション資料より作成)

↓ 受験人数(採点)や作問の関係から、一般的に私立大学の問題はマークシートや短答による解答形式が多い。

本報告では、2023年度(2022年度実施)の**国公立大学入試問題と、同年実施のWRT(第17回)と比較**する。

校種	大学	学部等	日程	備考
国立	北海道	文.総合文系	前	
国立	筑波	生命環境.人間.人文・文化.社会・国際.総合選抜文系	前	文系と理系では別問題
公立	高崎経済	地域政策	前	
公立	高崎経済	経済	中	
国立	東京	文科一.文科二.文科三	前	
国立	東京学芸	教育	前	
公立	東京都立	法.人文.経済経営.都市環境	前	文系と理系では別問題
国立	一橋	商.法.経済.社会	前	
国立	新潟	人文	前	
国立	信州	教育	前	地・公から1題ずつ選択
国立	愛知教育	教育	前	
国立	名古屋	文.情報	前	
国立	京都	文.法.経済.教育.総合人間	前	
国立	大阪	文	前	
国立	九州	文	前	
国立	長崎	教育	前	地公の共通大問あり

※学部内の全学科で地理受験が可能な訳ではない。(ベネッセコーポレーション資料より作成)

→本報告で対象とする問題は、上記**15大学18種類の入試問題**とする。  
(以後、18種類の入試問題はA～Rの符号で記す)

2023年度 (2022年 度実施)	大 問 数	解答数		資料 数	説 明 式 の 割 合 (%)	解答形式								掲示資料						
		大 論 述	選 択 式			短 答 式	説明式					作 図 等	そ の 他	地 図	統 計 地 図	図	表	写 真 等	そ の 他	
							理 由	比 較	類 型 化	提 案	そ の 他									
A	4	74	1	11	11	26	38	7	1	0	0	0	2	0	3	3	2	3	0	0
B	3	64	0	5	9	39	19	6	0	0	0	0	0	0	2	1	1	1	0	0
C	5	54	0	8	35	8	27	18	1	0	0	0	0	0	6	0	2	0	0	0
D	4	52	0	14	23	33	7	9	3	0	0	0	0	0	5	0	7	2	0	0
E	3	42	0	10	33	20	9	13	1	0	0	0	3	0	3	0	4	3	0	0
F	3	39	0	4	23	15	14	9	0	0	0	0	1	0	1	0	1	2	0	0
G	3	34	0	9	24	10	15	6	1	0	0	1	1	0	3	0	6	0	0	0
H	3	33	0	8	52	10	6	16	1	0	0	0	0	0	1	2	4	1	0	0
I	3	29	0	6	38	12	6	9	2	0	0	0	0	0	1	1	1	3	0	0
J	3	28	0	12	43	15	1	12	0	0	0	0	0	0	3	4	3	1	1	0

※国公立二次の論述問題のテーマは、毎年、「入試の出題傾向」として佐藤裕治がまとめている。

2023年度 (2022年 度実施)	大 問 数	解 答 数		資 料 数	説 明 式 の 割 合 (%)	解 答 形 式										掲 示 資 料				
		大 論 述	選 択 式			短 答 式	説 明 式					作 図 等	そ の 他	地 図	統 計 地 図	図	表	写 真 等	そ の 他	
							理 由	比 較	類 型 化	提 案	そ の 他									
K	3	26	1	13	31	14	4	8	0	0	0	0	0	0	3	0	4	3	3	0
L	5	24	0	7	38	9	6	8	1	0	0	0	0	0	2	0	1	4	0	0
M	1	13	2	4	15	10	1	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0
N	2	11	4	3	64	0	4	5	2	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
O	2	11	5	1	55	5	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
P	3	9	5	5	100	0	0	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0
Q	3	5	3	5	60	0	1	3	0	0	0	0	1	0	2	0	2	1	0	0
R	4	4	4	5	100	0	0	4	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	0	0
WRT(第17回)	6	44	0	73	73	6	4	23	7	1	1	0	2	0	24	3	17	6	4	1

※ここでの大論述は、文字数指定が150字前後以上のものとする。

・大学入試問題全体の特徴

※解答数：4～74題と、大学によりかなり異なる。

60題～	： 2 問題	→ <b>選択・短答式</b> > 説明式 (大論述は少ない)
45～60題	： 2 問題	} 大学により異なる(説明式が1/2～1/4と幅あり)
31～45題	： 4 問題	
16～30題	： 4 問題	→ <b>説明式</b> が多い(1/3前後)
1～15題	： 6 問題	→ <b>選択・短答式</b> < <b>説明式</b> (大論述が多い)

→類型化や**提案型の説明式問題はみられない**。

※資料数：1～14個と、大学によりかなり異なるが、

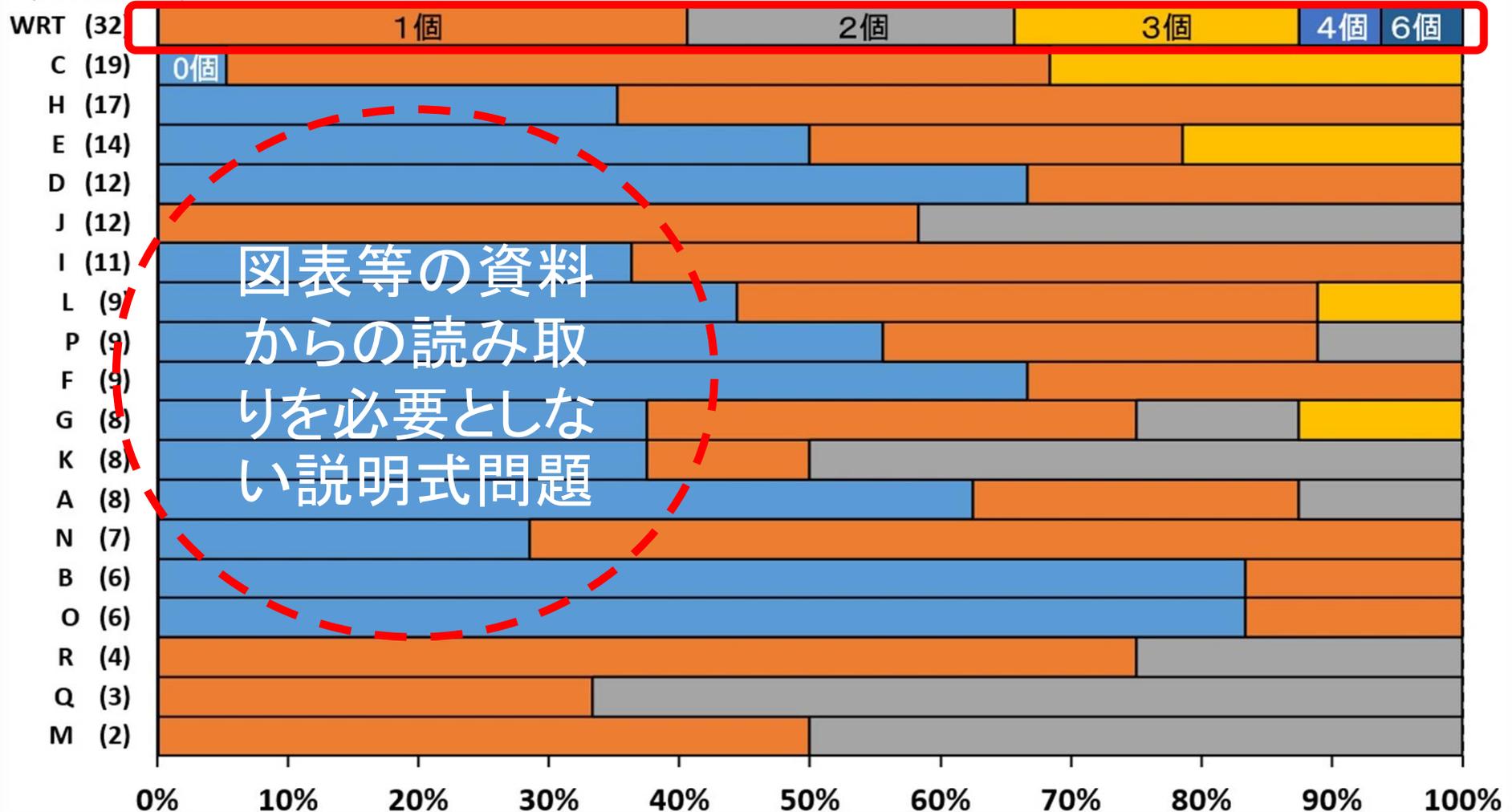
**約7割の問題で資料数が9以下**(13問題)。

→全体としては、地図、図、表の順に多

く、写真や統計地図の提示資料は少ない。

- 説明式問題で読み取りを必要とする提示資料数

(説明問題数)



- 大学入試問題における説明式問題の特徴
  - ※ **12問題(約67%)**で、説明式ではあるが**資料(地図・図表等)からの読み取りを必要としない設問が約1/3を占める。**
    - ex) 「モノカルチャー経済の特徴と課題について説明しなさい。」といった形式の設問。
  - ※ **複数の資料(地図・図表等)を活用し、多面的・多角的に考察させた上で説明する設問は多くない。**
    - 複数資料の活用では、新旧の地形図比較が比較的多い。

(大学入試問題は、各大学HP、各予備校(河合塾、駿台予備学校、東進ハイスクール)HP、『2023大学入試問題正解 地理』旺文社 等に拠った。)

佐藤裕治: 「2023年度 入試の出題傾向」、地歴・公民資料ChiReKo2023年度特別号-サクラサク入試分析2023秋-、2023.(帝国書院HPからダウンロード可能)

・ WRT(第17回)の特徴

※解答数44(大学入試問題の中では多い方に分類)

(選択式6・短答式4・説明式32・作図等1)

→**説明式問題が約7割**を占め、**類型化や提案型の説明式問題がみられる。**

※資料数55(大学入試問題と比べるとかなり多い)

(地図24・統計地図3・図17・表6・写真4・その他1)

→**地図、統計地図、図、表、写真等が満遍なく提示**されている。

※説明式の中では、**2つ以上の資料を活用し、多面的**

・**多角的に考察させた上で説明する設問が約6割**を占める。(大学入試問題と比べるとかなり多い)

## 本報告のまとめ

### ①WRTにおける受験者の解答分析

- ・大問 E 全体の**得点率は約40%**であり、全体的にみると無解答者は少ない。しかし、**提案型の説明式問題**(設問(4))では、**無回答者が約3割**を超える。  
→受験者が、「解決策の提案や提言能力(参加行動)」に関する設問に慣れていないのか、解答時間の不足(大問 E は、日本語問題の最後の  
大問)によるものかまでは判断できない。

### ②WRTにおける問題内容の検討

- ・大問 E では、**7問中6問は識別指数が0.25を越え、設問(1)に関する3問は識別指数が0.50を越える。**  
→識別指数と得点率からみると、**大問 E は識別に適しており、問題としての妥当性がある。**

## 本報告のまとめ

## ③WRTと大学入試問題の特徴分析

- ・ 大学入試問題では、**複数の資料(地図・図表等)を活用し、多面的・多角的に考察させた上で説明する設問は多くない。**
  - 約7割の問題で資料数が9以下であり、**類型化や提案型の説明式問題はみられない。**
- ・ WRTでは、**説明式問題が約7割を占め、類型化や提案型の説明式問題もみられる。**
  - 大学入試問題と比べると**資料数がかなり多く、複数の資料を活用し、多面的・多角的に考察させた上で説明する設問が約6割を占める。**
    - ↓ 「地理総合」「地理探究」で育成する資質・能力。

「地理総合」「地理探究」で育成する資質・能力として、

- ・ 地理に関する**様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能**。【知識・技能】
- ・ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、《中略》**多面的・多角的に考察する力**。【思考力・判断力・表現力】
- ・ 課題を**主体的に追究、解決しようとする態度**。【学びに向かう力・人間性】  
などが挙げられる。

↓  
これらは、地理オリンピックで求められる、**地図スキル、探究スキル、グラフィカシースキル**とも重なる。

大学入試では、**提案型の説明式問題、多面的・多角的に考察させた上で説明させる問題は少ない**のが現状。

①受験者の解答分析、識別指数による内容の検討から、**WRTの問題内容には妥当性があることが明らかとなった。**

今後**も**識別指数等による分析を継続的に実施し、**WRTの問題内容を検証していく**ことが求められる。なかでも、**提案型の説明式問題については、受験者の解答状況(無回答等)を継続的に確認していく**ことが必要である。

日本選手権の開始から16年が経ち、問題内容も安定。  
→本報告では、ある年度の大問についての検証のみ。  
・検証方法(識別指数or他の方法)、検証内容(全問題or抽出)、検証間隔(毎年or隔年等)等を検討し、継続的な検証を行う時期と言えるのではないか。

②学習指導要領は、基本的知識を基礎とした思考力・判断力・表現力や態度的な側面を重視しているが、大学入試問題では**提案型の説明式問題、多面的・多角的に考察させた上で説明する問題は少ない。**

↓ 大学入試の過去問と同様に、授業でのWRTの過去問の活用についての検討が求められる。

「地理総合」・「地理探究」の各単元で、WRTの過去問を発展課題として活用する際の進め方(特に提案、複数資料活用の設問)。

授業での発展方向

- ・過去問と一緒に、**解答にあたっての観点をループリックで示していく。**【指導と評価の一体化】
- ・グループによる話し合いやICTを活用し、**他の生徒の解答や意見交換の機会を取り入れる。**【協働的な学び】
- ・生徒にループリックを作成させる等、**思考・判断の過程を自らが考える機会をつくっていく。**【自己調整学習】

答えが1つではない社会的課題に対して、地理的な見方・考え方を活かして、多面的・多角的に考察し主体的に追及・探究させる。

本報告で確認したW R T問題の活用場面とループリック。

① 2020年度 第15回WRT 大問E-(2)②

↓ 「地理探究」… A 現代世界の系統地理的考察  
「(4)人口、都市・村落」の発展課題として活用。

設問	育成する資質・能力	レベルA 高 ←	レベルB	レベルC → 低	地理オリンピックで求められるスキル
E-(2)②	思考力 ・ 判断力 ・ 表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図中の集落について、</li> <li>(1)耕作地の立地条件から2つに類型化し、</li> <li>(2)それぞれの農地立地の特徴と、</li> <li>(3)その理由について説明、</li> </ul> の3つを満たしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図中の集落について、</li> <li>(1)耕作地の立地条件から2つに類型化し、</li> <li>(2)それぞれの農地立地の特徴と、</li> <li>(3)その理由について説明、</li> </ul> のうち、2つを満たしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図中の集落について、</li> <li>(1)耕作地の立地条件から2つに類型化し、</li> <li>(2)それぞれの農地立地の特徴と、</li> <li>(3)その理由について説明、</li> </ul> のうち、1つを満たす又は全てを満たしていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフィケーションスキル (映像、写真、統計、グラフを読み、分析し、解釈するスキル)</li> <li>・探究スキル</li> </ul>

※実際の授業では、国際地理オリンピック日本委員会実行委員会編(2023)や同HPに掲載された、W R T過去問を利用する。

## ② 2020年度 第15回WRT 大問 E-(4)

「地理探究」… C 現代世界における

これからの日本の国土像

「(1)持続可能な国土像の探究」の発展課題として活用。

設問	育成する資質・能力	レベルA 高 ←	レベルB	レベルC → 低	地理オリンピックで求められるスキル
E-(4)	学びに向かう力・人間性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化策について、</li> <li>(1)地域資源を活かして、</li> <li>(2)都市居住者との関係を創り、</li> <li>(3)実現可能な地域活性化策を追究・提案</li> </ul> <p>の3つを満たしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化策について、</li> <li>(1)地域資源を活かして、</li> <li>(2)都市居住者との関係を創り、</li> <li>(3)実現可能な地域活性化策を追究・提案</li> </ul> <p>のうち、2つを満たしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化策について、</li> <li>(1)地域資源を活かして、</li> <li>(2)都市居住者との関係を創り、</li> <li>(3)実現可能な地域活性化策を追究・提案</li> </ul> <p>のうち、1つを満たす又は全てを満たしていない。</p>	・探究スキル

## ③ 2020年度 第15回WRT 大問 E-(1)①・②

↓ 「地理総合」… B 国際理解と国際協力

「(1)生活文化の多様性と国際理解」の発展課題として活用。

設問	育成する資質・能力	レベルA 高 ←	レベルB	レベルC → 低	地理オリンピックで求められるスキル
E-(1)①	知識 ・ 技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等高線から、(1)地形の範囲を適切に読み取り、(2)その地形名を示す、の2つを満たしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等高線から、(1)地形の範囲を適切に読み取り、(2)その地形名を示す、のうち、1つを満たしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等高線から、(1)地形の範囲を適切に読み取り、(2)その地形名を示す、の全てを満たしていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図スキル</li> </ul>
E-(1)②	思考力 ・ 判断力 ・ 表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等高線から、そのように判断した理由を、(1)その地形の特色を理解し、(2)示された地形図を使って、(3)(判断理由を)具体的に説明、の3つを満たしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等高線から、そのように判断した理由を、(1)その地形の特色を理解し、(2)示された地形図を使って、(3)(判断理由を)具体的に説明、のうち、2つを満たしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等高線から、そのように判断した理由を、(1)その地形の特色を理解し、(2)示された地形図を使って、(3)(判断理由を)具体的に説明、のうち、1つを満たす又は全てを満たしていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフィカシーンスキル (映像、写真、統計、グラフを読み、分析し、解釈するスキル)</li> <li>・探究スキル</li> </ul>

本報告では、日本選手権W R Tは国際的な地理教育の潮流と学習指導要領の理念(育成すべき資質・能力)とを結びつける役割を担えることが確認できた。

→今後に向けての提案や授業等での具体的なW R Tの活用方策等について、会場の皆さまから様々なご意見を頂き、議論が深まっていけば幸いです。

以上で発表を終わります。  
ご清聴ありがとうございました。

- ・本報告にあたって、入試問題等の資料をご提供頂いた国際地理オリンピック日本委員会実行委員会にお礼申し上げます。
- ・なお、本報告の内容は発表者に帰するものであり、国際地理オリンピック日本委員会実行委員会の見解ではないことを申し添えます。